

平成16年度福井県経済社会活性化戦略会議第3回会議概要

日 時	平成16年11月29日(月)	15:30~18:00
会 場	福井県庁7階	701会議室
出席者	西川 一誠	福井県知事
	天谷 祥子	学校法人天谷学園理事長
	有馬 義一	敦賀海陸運輸(株)取締役社長
	稲山 幹夫	稲山織物(株)代表取締役社長
	馬場 修一	日本労働組合総連合会福井県連合会長
	堀田 健介	モルガン・スタンレージャパン・リミテッド会長
	三田村俊文	(株)福邦銀行取締役頭取
	山本 雅俊	福井県副知事
	吉野 浩行	本田技研工業(株)取締役相談役
欠席者	加藤 秀雄	福井県立大学経済学部教授
	新町 光示	(株)ジャルパック代表取締役会長
	八木誠一郎	フクビ化学工業(株)代表取締役社長
	吉村 豊子	(株)吉村甘露堂取締役相談役

会議概要

〔知 事〕本日は、皆様方には、ご多忙の中、平成16年度の福井県経済社会活性化戦略会議第3回会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今年は、私自身、知事にならせていただいて2年目ということで、いろいろな成果をあげなければならないという状況にあります。いろいろなプランの実現に向けて全力で取り組んでいるところです。今年は水害や台風などの災害、原子力の事故等もございました。そうした中、本来の仕事の方も遅れるわけにはいかず、いろいろな努力しているところでございますが、なかなか十分にいたらないところもあり、本日はいろいろな意味でご支援いただければ幸いです。

今日は、『『挑戦(チャレンジ)ふくい』の取組状況』、『観光戦略プラン』、『農林水産業の活性化』の3つを議題としております。今年度の予算でもいろいろ対応しておりますが、12月県議会の時期でもありますし、新年度の予算での対応も考えなければならない時期でもあります。そういった意味で、貴重なご意見をいただきますようお願い申し上げて、簡単でございますが、冒頭のごあいさつとします。

〔議 長〕本日は、『『挑戦(チャレンジ)ふくい』の取組状況』、『観光戦略プラン』、『農林水産業の活性化』を議題としているいろいろご意見をいただきたい。知事就任から2年が経ち、少しずつ具体的な案が出てきたようである。それについて、いろいろ報告をしてもらい、その後で皆様からのご意見、ご質問をいただくこととしたい。

まず、『『挑戦(チャレンジ)ふくい』の取組状況』についてお願いしたいが、その中の『農林水産業関連施設の取組状況』については、本日の議題3で『農林水産業の活性化』を予定しているので、その時に併せて説明をさせていただく。議題1の中では、それを省いて意見を伺いたいと考えているので、よろしく願います。

〔事務局〕『『挑戦（チャレンジ）ふくい』の取組状況』について、〔資料1〕に基づき説明する。

〔資料1〕に基づき説明

〔委員〕「みらい人財の育成」の所にビジネススクールの話がなぜ載っていないのか。状況が分かっているのであれば説明してほしい。

〔事務局〕後ほど、ご説明する。

〔事務局〕子育て上手プログラムの状況について、〔資料1〕に基づき説明する。

〔資料1〕に基づき説明

〔事務局〕県立大学のビジネススクールについて、今ほど配布した資料に基づき説明する。

〔配布資料〕に基づき説明

〔委員〕これは、何回やって、何人くらい来たのか。プレビジネススクールはもう2回やったのか。

〔事務局〕プレビジネススクールは、福井と小浜で開催しており、各会場7回、今年の5月から9月くらいの間で行っている。参加は、福井地区で54名、小浜市で31名。プレビジネススクールは前期で終わり、今後は短期ビジネス講座ということで、「経営革新」コースという経営者側の人を目指したものを10月から始めて35名参加しているのと、中堅社員を目指した「キャリア形成」コースに受講者32名が参加している。こちらも10月からやっている。

〔委員〕2つの講座が進んでいるのか。

〔事務局〕平行してやっている。経営者向けと中堅社員向けという形でそれぞれやっている。

〔委員〕期間は6か月なのか。

〔事務局〕約5か月くらいになる。

〔委員〕これは特に資格ってというのは問われるのか。

〔事務局〕問わない。

〔委員〕受講すると、何か資格がつくわけではないのか。

〔事務局〕修了証だけである。大学院ではないので、学位は出ない。

〔議長〕それでは、今までのところの各事業の進捗状況についてご説明をいただいたが、これから各事業についてご意見等をいただきたい。時間は限られているので、一括して、今まで申し上げた中でどこからでも結構なので、ご意見等いただければ幸いである。

〔議長〕雇用15000人とあるが、3年に4600人か。先ほどの話だと、自信があるということか。

〔事務局〕自信を持ってやっているが、雇用のセーフティネットという項目があって、国の特別な緊急的な雇用のための制度も活用した上での数字であり、これが16年度に切れる。そうすると、これはかなり厳しい数字になってくるのだが、いろんな施策を絡めながら、努力していきたいと思っている。

〔議長〕自信があるのはありがたいことだ。雇用のミスマッチの中に入るのかどうか分からないが、「ふくいジョブカフェ」は若者だけが対象だと思うが、一般の人あるいは退職した人に

対する窓口があってもいいのではないかと。以前、商工会議所でやろうとしたら、チェックを受けた。今、商工会議所でも届出だけで無料相談所を作れるようになった。敦賀は会員の方の就職相談をやっている。会議所とかでもやるような事業を後ろから支援していただいて、要するに接点がたくさんあればあるほどいいのではないかと思う。「ふくいジョブカフェ」は非常に役に立つ。他の所にもっとたくさん作ればいいのではないかと。よりきめ細かい支援ができるのではないかと思い、資料を読んでいた。

〔事務局〕今年から、職業紹介が各自治体あるいは商工会議所等でもできるようになった。しかし、オールマイティーではなくて分野が決まっており、商工会議所だったら商工会議所の会員に限られている。ふくいジョブカフェは、特に若者の失業率は通常の倍ぐらいあり、特に支援を強化しなければならないということでやっている。嶺南地域へは出張相談を実施している。無料職業紹介については、各団体でいろいろ取り組んでいただけるよう、我々も後押ししているところである。

〔議長〕少しでもツールを使ってやった方が15000人に到達する可能性が高まるのではないかと。

〔委員〕子育て上手プログラムの取組みについて、大変充実していただき本当にありがたいことだと思う。ただ、行政面では全国的に充実してきており、たいへん子育てがしやすくなったと思うが、私が一番大事だと思うのは、子を産み、育てようという気持ちがなければならないということである。女性の精神面が一番大事。女性は今では自分の幸せが1番、子供と主人の幸せは2番か3番。自己中心的すぎると思う。どちらかといえば愛されることを求めて愛することをしない。してほしい、してほしいで相手にしてあげるということを忘れていないのではないかと。

福井県は仏教王国なので、我が家族を愛する、我が地域を愛する、それから我が故郷を愛する愛社精神、愛県精神を教育していかなければならない。子供を産んで、育てて、愛情を自分が注ぐことがどんなに幸せであるかということがわかっていないような気がする。行政がどんどん進んでいって、していただけるというのばかりで自分がしようとしなない。そこに子供を産まない、育てないというところがあると思う。

そのためにも、教育をしていかなければならない。私が女性(学生)に聞いてみると、料理なんか自信がない、ご主人の世話をする自信がない。女性が下宿生活をしながら、学校から帰ってきたら好きなテレビを見て、好きな音楽を聴いて、食べたい物を食べて大学時代の4年間を過ごしていると、こんなに幸せなことはない。親もあなたはできるのだから偉い、女性ですごく立派な大学に入ったのだから偉いと褒める。ところが、故郷へ戻ってきて就職したらびっくりして、ストレスや過呼吸になって、それでどうしていいか分からなくなる。

私は、してもらうのではなくて、してさしあげようという奉仕の精神、その喜びをどう与えていくかが一番問題なのだと思う。それを福井県が全国に率先して、全国に先駆けて、愛社精神、愛県精神を知事が率先して言ってくれと考えると考え方が変わると思うし、物の見方が変わると思う。それを解決していただくと、子供を産むと思う。子供はかわいいし、少々お金がなくても育てようと思ったら育てられる。

〔知事〕行政としては、どういうアプローチがとれるのか。

〔委員〕行政は過保護すぎる。

〔委員〕私も、すみずみ子育てサポート事業など、至れり尽くせりだけど、そこまでやっているのかなと思っていた。今から日本は少子化で人口が減っていく。人口が減っていくということは、国力は当然落ちていくと思う。福井県は、どうしても人口が少ないからパワーがな

いという考えもあると思うが、少子化対策という意味では、例えば、この間も大野市でどうしたらいいかと聞かれたから、子供を産んだら150万円とか200万円とか思い切ってあげたらどうか言った。今の若い女性は晩婚化、結婚しない症候群になっているから、政策的に奨励するのが1つだと思う。よっぽど思い切ったことやらないといけない。

〔知事〕人間は我が家、我が空間が最も快適なものである。外へ足を一步踏み出すとストレスがたまるもの。子供も皆そうなのではないか。

〔委員〕解決するにはやはり愛情を注ぐ喜びを与えなければいけない。私の学校では、朝礼が1時間あり、学生に対して自分の実体験、自分の生の体験をぶつけている。そのことが学問的な教科書に書いてあるようなことよりも効果がある。それを福井県が率先してやるのではないのか。長寿じゃなくて、なぜ子供が増えたのかということをや2番目のテーマで。

〔委員〕子育て上手プログラムは、子供をいかにたくさん作るためのプログラムではなくて、女性の就業率を上げ、女性の力をもっと産業の活性化、社会の活性化に使うため、女性が働きにくい環境を働きやすい環境に変えるために作られたプログラムではないのか。

〔委員〕なぜ子供を産まないのかということ、働いている母親が子供を産むと、働くことについて障害となる。そういう障害をできるだけ少なくしていくというのが、このプログラムの本来の目的である。

〔委員〕それは2つ問題があって、どっちのステップに焦点を当てるかだ。子供を産みやすくするというのが1つで、女性の力をもっと産業や社会の活性化に現状のままで使いやすくするというのもう1つ。むしろここで言うのは、家庭の中で束縛される女性のいろいろな仕事を行政がサポートして社会に女性を出していこうとする、これがプログラムの趣旨ではないのか。

〔事務局〕基本は少子化対策の一環として進めようとしているわけだが、それぞれ負担を軽減しながらしっかりと社会でも貢献していただく、育児と仕事を両立していただくということで、それに直結する事業ではないかと捉えている。

〔委員〕それは、どういう尺度で測っていくのか。家庭の束縛から解放されて、3年の間にどれだけ女性が社会に出てきたかなど、測る尺度はあるのか。

〔事務局〕既に女性の就業率は非常に高いが、いかに負担が軽減されたかという意味では、このような事業の需要度がどの程度伸びているかということで測るしかないと思っている。

〔委員〕女性の就業率は何かデータがあるのか。福井県は高いと言われているが、例えば、定点で3か月に1回測れるような統計があるのか。

〔事務局〕例えば、18歳未満の子供がいる夫婦の共働き率は68.9%で、全国2位である。毎年のデータである。

〔委員〕福井県の完全失業率を18年度には2%台にしたいという報告もあった。県内でも、フリーターと呼ばれる方々が7000名近くいると言われているし、また学校にも行かない、仕事にも就かないというニートと呼ばれる方々も1500名近くいると言われている。

今後そこにどうやってメスを入れていくかということと、それとあわせて今、取り組んでいる「挑戦(チャレンジ)ふくい」の各事業を、さらに企業誘致の問題を含めて努力していただきたいと思う。

完全失業率について、北海道、東北、大阪、九州では現在の失業率が5%以上あると言われている中で、福井県はその面においては恵まれている部類に入っているとは言え、今後は企業誘致をする場合の諸条件に含めて、セールスマンになって誘致活動を拡大していただきたいと思う。

〔委員〕産業労働の分野で、実際にやっておられる立場から手ごたえ感がどれくらいなのか伺いたい。例えば、今までに対して、1割とか2割とか、そういう感じで活性化しているとか。それとも、5割くらいは今までに比べて活発になっているというのか。

〔事務局〕なかなか数字で申し上げるのは難しいが、産力戦略本部を作り、ベクトルを合わせながら、大学も職員も企業へ出て行っているところがかなり反応として返ってきている。大学の門を叩く、工業技術センターの門を叩くという企業は増えており、共同研究の数も増えつつあるということは確かな感触として我々は受け取っている。この成果は上がっていると思う。そういった意味で、4年間で産学官共同研究に参加する企業を倍増するという目標については、今、順調に進んでいると申し上げることができる。

〔委員〕ここ1、2か月の間に、「産業元気フェア」という企業が自分の事業を発表するような機会があり、デザイナーを呼んで繊維産業のデザイン活性化をやった。来場者は去年と比べると非常に増えている。そういう面では、このような場に参加する企業が多くなっていると言えるのではないか。その成果はどうかと言われると、まだこれからだと思うが。

先程のビジネススクールでもそうだが、開講するというと、募集人数の3倍程度の申込みがあり、もっと開いてほしいという声が多い。今年の高卒の就職状況も、現時点で去年と比べると各企業に採用していただいている数も増えているし、ポジティブな兆しはあると思う。

〔議長〕今までのところで大きな問題点というのは出てきていないのか。

〔知事〕やはり県の中でやっているという印象が強い。外からの出入りがもう少し起きないとなかなか難しいという感じがする。

〔委員〕「新規創業プログラム」の中で、開業特別支援資金等の資金助成や経営指導など、特に資金助成をしているが、もともと「挑戦（チャレンジ）ふくい」が出た時に申し上げていたのだが、お金を貸すのではなくて資本を出す、今はやりの言葉で言うとベンチャーキャピタルという出資者を外から募ってくる仕組みは採用する考えはないのか。

例えば、京都にはいろいろファンドがあって、石川や新潟では共同でやっているというのは申し上げたと思うのだが、資本が必要だというのはあまり事例がないのか。むしろ企業誘致だけでいいということか。

〔事務局〕ベンチャーキャピタル含めたファンドについては、我々も研究しているが、福井県ではやっぱり間接金融の方が受け入れられやすい。直接金融については、なかなか成功してないという例もある。県と連携している伊藤忠商事が中心となって立ち上げた「がんばれ！中小企業ファンド」があり、そうしたものも活用していこうとしているところだが、県が主体的となったファンドは、今のところはまだである。

〔委員〕県がファンドをやる必要はないと思うが、一部一緒にやってもいいと思う。宮城県、新潟県、石川県などでは、外部の資金を持っている人達と一緒に有望な企業に資金を投資していく仕組みがある。これはリスクマネーがあるから、投資家がいいと思って失敗すれば、それはしょうがない。県が間に立つ、県と一緒にお金を出すということについての是非は、検討しないといけないが、資本がほしいという開業希望企業というのは、福井県内にはあまりないのか。融資、借り入れだけでいいのか。

〔事務局〕今のところは融資に偏っている。

〔委員〕そのような新しいスキームも作っていかねばならないと思っているのだが。

〔委員〕先ほど言われたように、県外の資本を入れてくると、投資家がいろんな情報を持ってくる可能性がある。ベンチャーキャピタルを間に巻き込めば、ビジネスチャンスが出てくる可能性もあるかもしれない。

〔委員〕先ほど言ったように、伊藤忠商事では技術展開を支援するという話と同時に、やはりモノをつくる場所に金がなければモノができてこないわけだから、お互いにリスクを持って出資しようというような話もないことはない。

〔議長〕しかしこれは、これからの福井県の課題である。外のお金が県内に入ってくるのも一部あるが、まだまだ福井には閉鎖的なところもあるので、個別についてはこれからの問題である。

〔議長〕では、本日の2つ目の議題「観光戦略プラン」の施策の現状をご報告いただいて、ご意見等をいただきたいと思う。説明をよろしく願います。

〔事務局〕「観光戦略プラン」の状況について、〔資料2〕に基づき説明する。

〔資料2〕に基づき説明

〔議長〕では、「観光戦略プラン」について、いろいろとご意見等いただきたいと思う。

〔委員〕県庁へまっすぐ駅から歩いてくると、「走らせよう北陸新幹線」という大きな横断幕が県庁舎に掲げてある。先程、民間が主役だと説明があったが、インフラ部分で民間ができない部分がある。

私は、長野県は陸の孤島だと思っている。長野市になぜプロ野球が行かなかったかという、長野新幹線で東京と1時間で結ばれているがそこだけがつながっていて、後はほとんどつながっていないからだと思う。松本市とは犬猿の仲だし、集客力の面でたいへん難しい。松本市は斉藤記念フェスティバルを約1か月半近くかけて行い、その影響で北アルプスと美ヶ原、あるいは浅間温泉というところが一体的に開発されているが、あれは松本市だけの話である。

そういう意味では、新幹線も走ってない、空港もない福井は陸の孤島だと思う。その陸の孤島にどうやって人を寄せ付けるかは、やはりインフラがなければなかなか大規模なことができないのではないかとというのが疑問の1つである。

もう1つの疑問は、人を寄せ付けたら、1泊、2泊だけの宿泊客だけではなかなか難しいという点である。やはり滞在型の、学校や体験学習、ファミリーで長期間滞在するという少なくとも夏休み、春休み、冬休み、正月一週間くらい家族で滞在できる仕組みにしないと、なかなかお客は来ないのではないかと思う。一旦来たらおいしいものを食べさせて、福井に留めておくというものでないといけない。あるいは、体験学習であれば、著名な芸術家を呼び込んで陶器だとか絵だとか映画だとか芸術村みたいなものを作って、そこで学習を1か月でも2か月でもやるような、滞在型の観光客を呼び込むような取組みをしないと、インフラがない限り観光客の増加は難しいのではないか。

観光戦略プランといっても、インフラを考えると特殊なものを作らないといけないというのが感覚的にあるが、どのように考えているのか。

〔事務局〕実は、県の観光動向を調査したら、その多くが中京と関西からの客である。また、福井へ入って来る形態は車が9割である。その中で、今も言われるような滞在型のものという、丹南地方には伝統工芸品産地が4つ集約しており、いずれも百年以上の製作手法をとったもので大臣が認定している焼物、漆器、和紙、打刃物があるが、全部体験ができるような形でのストーリー性がある形での観光商品を作ろうという案も1つとしてある。また、嶺南の学校で、自然学習を含めて長期滞在をするスタイルが採られていることから、これを嶺北

の方にも作れないか検討し、観光商品の中で盛り込みたいと思っている。

〔委員〕県のホームページでは、県政トピックスの「ふくいの旅」が一番下の方に小さくしか載ってないので、大きくしてほしいと思う。観光は目玉商品だから、できたら大きくしていただきたいと思う。

それから、3日ほど前に全国商工会議所女性会の会長会議が新高輪プリンスホテルであった。商魂たくましいということで驚いたのは、ホテルロビーに、中高年女性の大好きなブレザーで派手な色が並んでいて、女性経営者の皆さんは1人10着、20着と買って帰る。すごい商売をするなど感心したのだが、福井駅も新しくなるし、県庁と駅との間が今のままではもったいないと思うので、「お城の中にある福井県庁に行こう」という看板を立て、「にぎわい県庁」とか「集い県庁」とか「お城の中の珍しい県庁」とか言って、県庁ロビーに眼鏡など県産品を置いて、販売したらどうか。

福井では、県産品を買いたくてもどこ行ったらいいかわからない。駅前に住んでいると、一歩街に出ると観光客に必ずつかまり、「眼鏡どこに買いに行ったらいいのかわ」「おろしそばはどこに食べに行ったらいいのかわ」と聞かれる。県庁に行けば、そういう資料が全部あり、教えてもらえる。そして安い眼鏡が売っていれば、中高年の女性が10個、20個とお土産に買う。

例えばロビーに漆器が売っていると、福井県庁に行けば越前焼の湯呑が1つ5000円もするのが500円で買えるとか、そういうものがあれば、お堀の中の県庁ってすごくユニークでおもしろいと思う。お堀祭りとか、亡くなった人の慰霊祭とか、イベントをお堀中心にやっていけば、県民はお堀を活用してやってほしいと思う。

秋田や青森などに行くと、大きなのがあってお土産をいっぱい買って帰れるが、福井県には観光物産館がない。それならば、福井では県庁に行くと、県内の目玉商品は買って帰れるし、パンフレットもあるし、買い物先も教えてくれるなど、そのような県庁だったらとても楽しいと思う。

駅前を歩いてみると、たくさんの看板が目にとまって、看板を見ながらお堀を渡って県庁に行ってみようというのも、全国的に女性客を呼ぶ1つの方法だと思う。バスで来て、県庁にちょっと寄って、お土産の1つも買って帰っていくというのは、福井県のPRになるのではないかと思う。

〔事務局〕事務的に考える我々はそういう発想が出てこないので参考になる。我々も眼鏡や繊維などは産地なので売りたいというのは長年の夢である。ただ、流通と生産の力関係等があって、なかなか思うような形でできない。

〔委員〕「観光」イコール「まちづくり」だと思う。そのことから言うと、先ほどインフラ整備の話が出たが、北陸新幹線が現状のスケジュールでついたとしたら、福井県は素通りだろう。石川県に行ってしまうのではないかというのが、私個人の思い。福井県の芦原温泉にもう一度行ってみたいと思わせるような芦原温泉をどう作り上げていくのか。このことがなくては北陸新幹線がついてもだめだろうと思う。

先程、長野は陸の孤島という言葉が使われたが、私は1年に2回長野に行く。その理由は、長野にはあでやかな温泉とは言わないが、行くところどころに温泉街がある。どこへ行っても泊まれるような状況にある。また、四季に応じて長野そのものが4回変わる。冬の長野、春の長野、夏の長野、秋の長野と4回違った長野が見られる。長野はいつ行っても陸の孤島であるが、車でも2～4時間の範囲で行けるという領域にある。また、京都に2年に1回なり3年に1回なり遊びに行くが、なぜ京都に2年に1回行くのか。東本願寺あり西本願寺あ

り金閣寺ありという中で、多くの人は何回も京都に足を運んでいる。

一方、福井の芦原温泉に本当に足を運んでもらえるだけのものがあるのが、1つ問題だと思う。これが石川県に行くと、片山津温泉、山代温泉、山中温泉という3つの大きな温泉街がある。私は先般、山中温泉に行って足湯に入ってきたのだが、若い男女でいっぱいだった。来ている理由を聞いたら、街中に足湯がいっぱいで、街並みがこおろぎ橋と連結して散歩できるような状況になっているからだ。景観を含めてまち全体を、旅行関係者や経営者を含めて変えようと努力している。

芦原温泉をどう変えていくか、どう作り上げていくかが重要だと思うし、それと連結して例えば永平寺をどう位置づけていくか、どのようなアクセスを考えていくのかを加えなければならない。北陸新幹線が開通し、芦原温泉にえちぜん鉄道に乗って、足を運んで行ってもらえるかどうかというときに、私は乗らないと思う。それならば、モノレールを走らせるとか、逆に煙を吐く車を走らせるとか、トロッコを走らせるとか、極端だが考えられる例ではないかと思う。芦原温泉を一周トロッコで走らせるのもよいだろうし、東尋坊との連結をどう図っていくか、まちづくりの中で総合トータルとして考えていかないと難しいという思いがしている。

〔委員〕確かにそうだと思う。観光というのは、まず人に来てもらうということだし、また女性をターゲットにするということもよく分かるが、ここに来ればこういう食べ物がある、こういう観光資源があるということをPRしなければならぬ。しかし、PRは非常に難しいことだと思う。あらかじめ分かっていた上で来ていただくということが大事だが、インターネット等ではある程度限度がある。最近、「冬のソナタ」ではないがテレビの影響は非常に大きい。行政としてテレビを活用することが可能かどうかは分からないが、テレビ広告や番組などのPR経費にもっとどんどんお金をかけられないものなのか。

〔委員〕大規模なコンベンションができるようなコンベンションホールは、福井市以外にどこにあるのか。

〔事務局〕福井市以外だと、武生市、鯖江市の境界にサンドーム福井という1万人程度入れるような施設がある。敦賀市であると若狭湾エネルギー研究センターがあるし、芦原温泉にも民間の旅館でかなり大きな会議施設を持っているところもある。

〔委員〕以前、他の委員も言っていたが、福井県には国際的なホテルがない。コンベンションをやっても泊まる場所がないということが話題になったが、鯖江市や武生市あたりには立派なホテルはあるのか。

〔事務局〕シティホテルはあるが、ビジネス用のホテルである。都市型ホテルは福井市内にしかない。

〔委員〕福井にホテルが出てこないというのは、やはり集客できる足がないということだと思う。だから北陸新幹線は非常に大きな問題だと思う。県というか国を動かさなければならぬ。脈々と底辺で、新幹線を取り込めるかが政治的課題として非常に大きい。

その次にもう1つ。福井には京都や大阪からの来訪者が多い。私はそれだけだと今後観光客は絶対に増えないと思う。今まで来ない人たちをどうやって取り込むかが重要であって、魚がいるプールだけを探していて、それで捕ったとしてもそれほど集まりはしない。

よその池へ行かないと魚は捕れないわけだから、やはり関東、北海道、あるいは韓国とか台湾とか、そういう人達たちをどう取り込むかが重要である。例えば、九州では韓国からの観光客が多いが、九州と福井をどうやって結びつけるか動線をいろいろ考えなければいけない。従来の動線だけで、また、インフラが今のままだということになるとなかなか増えない

と思う。

〔委員〕先ほど、「冬のソナタ」の話が出たが、なぜあれほど女性を惹きつけたかという、魂だと思う。画面は正直で、日本人に一番失われている魂が画面に表れていたから。富山に「おわら風の盆」という踊りがあるが、なぜあんなに不便なところに皆が行くのか不思議に思っ
て行ってきた。やはり、あそこには日本人の魂が残っていて、別に豪華なものでなくても皆
を捉える魂がある。

福井県でもそのようなものを何か打ち出し、それが何かのきっかけでパッと広がれば、女
性の心を捉えられると思う。福井はそういういいものを持っている。それをどう掴んでいくか
が大事である。

〔知事〕インフラについては、北陸新幹線は少し時間がかかる部分もある。空港は、福井県独
自の空港はやめたので、小松空港の利活用を進めている。先週、小松 - 上海便が週 2 回就航
するようになった。東アジアのルートは一応きていると思っている。それから敦賀は再来年
に J R 直流化が実現し、関西や名古屋から料金がほぼ半分くらいの快速電車が来るよ
くなるので、敦賀は長浜のような感じになると思う。小浜、若狭については、兵庫や京都からの
高速道路が 2 年前に小浜西まで開通したので、ルートは一応ある。今後は敦賀と小浜からの
両方から約 50 km にわたって高速道路建設（舞鶴若狭自動車道）を進めるということで、
10 年弱で開通すると考えている。また、福井から勝山、大野を通じて岐阜までの高速道路
（中部縦貫自動車道）は今これからである。大野までは工事は始まっている。岐阜県境の油
坂峠まではすでに高速道路が来ているので、これがこれからの課題である。特に時間がかか
りそうなのは北陸新幹線と中部縦貫自動車道だと思う。

〔委員〕素材とアクセス、これは両方必要なだろうが、やはり一番必要なのは素材ではない
か。質より素材で、それをどう磨くかが重要である。確かに言われるように十年一日である。
従来の観光地のようなものは必要なのだが、戦略性をもっと持って箇所を絞り込んで磨きに
磨くことが必要である。磨き方にはいろいろソフトの方もあって、もうちょっと戦略
性を強めた方がいいのではないか。

〔議長〕個別に磨くのも大事だとは思うが、特に今ないのではないかと。素材はたくさんあるが、
これというのはなかなか思い当たらない。だから今、県ではブランドをやっている。やはり
福井の個別ではなくても複合的でもいい、早急にブランド・イメージを作り上げることも大
事だと思う。健康長寿が、なぜそういう風になるのかを。

〔委員〕内容がないといけない。これ食べると長生きするとか、具体的な言い方しないと、健
康長寿だと言ってもなかなか難しい。

〔議長〕食品だけではなくて、下でプラカード見てきたのだが、「なんで長寿か」というのがア
ンケートに入っている。しかし、アンケートの中に役に立つのが 1 つもない。中でそういう
影響があると思うのは、住居が少し広いのと共稼ぎで女性が元気だと言うことぐらいである。
ずっといろんな統計資料を出しているが、他はほとんど役に立たないような感じだ。

〔委員〕塩分の摂取量が少ないとか。

〔議長〕これを食べれば元気が出るというのを作ればいい。

〔知事〕今、研究をしているところで、レポートが出る予定である。

〔議長〕何か 1 つのイメージが出ればいいと思っているのだが。

〔委員〕沖縄のゴーヤみたいなものを一本と打ち出せるといいのだが。

〔委員〕騙してはいけない。本当のことでないといけないから難しい。

〔知事〕今は観光について行政がやっているが、例えばプロモーターのような人に何人かで代

表でやってもらうことはどうかと考えている。我々がやっても、皆さんが言われることを、そのとおり応用してやれるようなことになるかというのがあるので、推進するための何か工夫がないかなと思っている。お金がかかってもいいから雇うとか。

〔議長〕たくさん人をつけて、県の方でやっているのではないか。

〔知事〕それは公務員がやっているわけで、そんなに大飛躍はない。

〔委員〕行政は、基本的にものすごく公平という観念が強い。このバリアをとらないといけない。

〔委員〕「全国素人そば打ち名人大会」は、年々参加者も増えて今年は50数人の参加があり、9回を迎えた。福井県に毎年全国から集まってくるが、このようなイベントを駅前でやれないか。「いつもおろしそばを食べるところないか」と、福井駅で降りた人が皆言う。でも駅前にはない。

〔委員〕南青山291で催しをやった時に、お客さんが夫婦で喧嘩をしていた。何を喧嘩しているのかと思ったら、福井県のパンフレット見て、「越前ガニ」が何色のタグを付けているのかで喧嘩をしていたらしい。福井は黄色のタグなのに、そのご主人はどうも赤いタグのカニを買ってきたらしい。あのタグ作戦というのはおもしろい。

〔委員〕先ほど、知事が言われた第三者のようなプロデューサーは、意外に割り切ってフォーカスした戦略を作るのにもいいかもしれない。

例えば福井県人で、岡本太郎さんとか、堺屋太一さんとか、いわゆる発想の豊かな人はいないのか。芸術家というか。もう水上勉さんも亡くなってしまったけど、いわゆる看板になる人、華のある人、極端なことをちょっとやるような人はいないのか。

〔知事〕有名な歌手はいる。あとは福井県出身の人で、料理人とかレストランのシェフのような人で東京や大阪で活躍されている方が結構多い。他に、お菓子屋さんとか。

〔委員〕訪れてみたい古寺で、永平寺は全国9番目にランキングされている。

〔知事〕永平寺との関係を何かしなくてはならない。永平寺はその地元が浄土真宗で、また修行場であって商売気のあるお寺ではないからなかなか難しい。魂はあるが、その辺のいろいろな段取りができていない。そういうのは善光寺がやっている。全国では善光寺が金毘羅さんぐらい。

〔議長〕誰かにやってもらうのはいいかもしれない。やってもらうっていうのは、ちょっと無責任ですけど、知恵を探していくのも重要である。

〔議長〕時間も限られているので、「観光戦略プラン」についてはこの辺りにして、残りの「農林水産業の活性化」についてご審議いただきたいと思う。では、説明をお願いする。

〔事務局〕「農林水産業の活性化」等について、〔資料1〕〔資料3〕に基づき説明する。

[資料1(農林水産業関連施策の取組状況)]および[資料3]に基づき説明

〔議長〕では、「農林水産業の活性化」について、いろいろとご意見等いただきたいと思う。

〔委員〕新規就農者が20人というが、何人に対して20人か。

〔事務局〕主業農家(農業収入が主で65歳未満の人が60日以上農業従事)として約1500戸。園芸農家は専業でないとなかなかやっていけない。また、準主業農家(農外収入が主で、65歳未満の人が60日以上農業従事)は9000戸くらいある。なお、新規就農者は米作りも園芸も入れて20人という数字である。ただし、兼業で手伝い始めた人は入っていない。

〔議長〕ブランド力のあるものは売れるけれども、そうでない物は、県外へ持って行くようにしても運賃がかかるので、地場で販売するしか方法がないのではないか。

〔事務局〕福井の場合はロットがまとまらないという難点もある。報告書の中にもあったように、日本一早いナシでも10トンの市場出荷が最低必要で、早く出荷量を確保することが課題となっている。市場価格をコントロールするようになるためには相当の出荷量が必要である。

〔委員〕ナシはそう簡単には増やせない。ナシが収穫できるまでには植えてから何年もかかる。

〔事務局〕ナシは普通、5年から7年で初めて収穫年齢に達する。10アールで収穫1年目が250キログラム、2年目が800キログラムくらい、3年目が2トンから3トンとれる。ただ、期間を短縮する方法として、外で3年くらい経った大きな苗を育ててから植えると3年目くらいから収穫を始めることができる。

〔議長〕小さめのトマト、ミディトマトはすぐできるのか。

〔事務局〕果樹と違って、苗を植えて1年でできる。

〔委員〕日本一早いナシを専門でやっている人は何人かいるのか。

〔事務局〕専門というわけではないのだが、ナシ農家の方が3アールとか5アールで始めている。

〔委員〕私の事務所にもナシを作っている人がいる。専門でやるには採算性とか不安定な要素がつきまとう。この不安定な部分が後継者づくりにも不安定な要素になりなかなか難しい。であるならば、言われたように「団塊の世代」の定年後の仕事にという部分が、正直申上げて福井県の農業の実態であり現実だということになる。だから、兼業農家が多いという福井県の現実の農業に結びつくのではないか。

そういった中で、退職して専業でやるのか、農業高校を出た若い人に専業でやってもらうのか、といった分かれ道は出てくると思う。

〔議長〕農林高校というのは卒業生何人くらいいるのか。坂井農林高校などの生徒が生かされていないのではないか。

〔事務局〕平成16年の卒業生で申し上げると、福井農林高校、坂井農業高校、若狭東高校の合計で約330人いる。

〔委員〕供給側の問題と需要側の問題があると思う。供給力が増えるというのは、農業としてどれだけ収入が多くなるかということで、多くなれば農業に魅力が生じて後継者が増えるわけだ。水田以外のところでどれだけ儲かる農業をやれる仕組みを作れるかということだ。

儲かるということは何かと言うと、やはり特殊なもの、価値の高いものを作っていく以外にない。特殊なものは大阪や東京の料亭へ出していく、あるいは香港や上海で売れるものを探して開拓していくといった両面で需要地を変えていくということがあるのではないか。

〔事務局〕昨年からそういう提言をいただいていたものだから、企業的な農業を立ち上げる必要があるのではないかとということで、いろいろ下準備を行ってきており、現状では一つくらい立ち上がるのではと期待をしているところである。

〔委員〕農業というのはこれまでJAに依存していて、自分達で売るという努力をしてこなかったことがいろんな面でのネックになっている。そこで出来るだけ儲かるような体制、組織づくりを今進めているというのが現状である。

先ほどの日本一早いナシもその典型だが、作った方がいいが、どう売っていかうかということとあまり考えていない。東京の千疋屋(せんびきや)で福井よりも遅い茨城産のナシを売っているが、なんと一個3000円とか4000円する。福井では3000円も4000円もするナシを誰も買わない。

〔事務局〕日本一早いナシは6月上旬が始めて、普通のナシよりも70日から80日早くとれる。

〔委員〕私も作っている人から買って、使い物として送った。

〔事務局〕ナシ以外にも高糖度のミディトマトとかクリスマスに出荷するイチゴなどにも取り組んでいる。ただ、農業者だけでは、販売先の開拓や、加工して製品にして売っていくという面では弱いものがある。

〔委員〕米なども加工して売ればいいのか。

〔議長〕ここで、事務局で福井米の新品種イクヒカリのおにぎりを用意していただいたので、コシヒカリのおにぎり食べ比べて感想をいただきたいと思う。

[イクヒカリの特長]について説明

〔委員〕品種の権利はどうなっているのか。

〔事務局〕種苗登録は福井県で行い、品種の権利は福井県にある。県には種子販売額の0.5%(県外)あるいは0.16%(県内)が歳入として入る。1キログラム400円で2円になる。ハナエチゼンの例では40万円くらいである。

〔議長〕せっかく売れてもコシヒカリのように他県に名前が取られないように、しっかりPRしていただきたい。

〔委員〕自分で栽培し、採った種で栽培するとどうなるのか。許諾料が取れるのか。

〔事務局〕実際には自家採取はほとんど行われず、種子の購入ということになるので問題はない。

〔委員〕イクヒカリは冷めてもおいしいというが、本当なのか。

〔事務局〕粘りも強いということで、冷めてもおいしくいただける。

〔委員〕以前、おにぎりでもらったものを、電子レンジで温めて食べたが、非常においしかった。

〔議長〕時間もきたので、今日はここで終えたいと思う。次回の日程等については、事務局から説明をお願いします。

〔事務局〕貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。次回は年度末に開催したいと思うので、よろしくをお願いします。

以上